

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100088		
法人名	球磨地域農業協同組合		
事業所名	JAくま 福祉の里 グループホーム 木綿葉		
所在地	熊本県球磨郡あさぎり町須恵覚井828番地		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年通り、地域との交流行事として年に1回「木綿葉の集い」を実施しています。この行事では「交通安全落語」が大変好評いただいております。また、地域で文化活動されている方々もご協力、ご招待し演奏などの様々な余興をご披露いただきご利用者様はもちろん、地域の方々にも喜んでいただいております。施設周辺のお散歩やお彼岸の「観音様お参りの接待」などで顔見知りの方が声を掛けてこれ地域に見守られた施設となっています。近くの須恵小学生との交流行事などもありご利用者様も楽しみにされています。毎日の生活に変化を取り入れる為に季節に応じたバスハイイクや外食、買い物、JAくまイベントの参加など積極的に取り入れております。また、入居者様の個別の希望に応じた支援や外出の機会と設けています。当事業所近くに昨年12月「木綿葉別館」もオープンしています。様々な活動を通して地域に必要とされた場所になるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JAが運営する福祉の里の一角を占めるグループホームは、立地的な制約を職員同士の一致協力と、地域の人的環境(老人会やボランティア)、地域資源(昔からの慣習・習慣が継続される地域であり、観音様参りでの接待等)を生かした日常は、高齢化の中で生きる力として生かされている。「木綿葉の集い」は年に一回の住民の楽しみ事となり、そうめん流し・介護犬の体験等学童との世代を超え交流に努め、新たに別館のオープンに合わせ学童保育もスタートされる等、この地での果たす役割は大きく、感謝の気持ちが表れている。職員のモチベーションの高さは、「帰宅願望はあってもそこは声かけ次第」として個別支援の徹底や、高齢化の中にあっても現状維持に向けたケア等に出し、自然体での対応と根拠のある支援を両立しながら、“あるがままに受け止め支援したい”と志向を高くしている。開かれたホームとして、家族会の開催の他、外部の目を通じてホーム及び入居者の状況を見てほしいと、今年度より介護相談員制度の利用をスタートしており、更に入居者の思いに立ってケアが実践されるものと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設当初より理念をホールの壁に掲示しておりスタッフ、利用者様、訪問者様など常に目の届くようにしています。また、広報に使用する書面にはこの理念を掲載し家族様や外部の方々にも共有出来るように努めています。</p>	<p>地域の中で、これまでの生活を尊重し自立した生活が送れることと、地域密着型の意義を踏まえ、“信頼、尊重、共生”を具体的に示した理念を掲げている。掲示による意識強化や、パンフレット、木綿葉便り等に記載しながら啓発に努めている。理念を的確に捉え、笑顔で楽しんで生活し続けられようと努力する姿勢に表れている。日々の申し送りや毎月の会議は業務中心であり、理念まで振り返ることは少ないとのことである。</p>	<p>毎月の会議は、サービス向上に向けた検討や研修のフィードバック等充実している。新年度に当たり、理念を基にした振り返りの機会を持たれることが望まれる。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事や観音様参りでの接待を受けたり、例年「木綿葉の集い」の開催し地域の方々を招き入れ様々な場面で交流の機会を作っている。施設周辺の散歩や施設周辺の掃除を行い挨拶やコミュニケーションをとっています。</p>	<p>昔からの慣習等が息づいた地域という環境と、入居者が住み慣れた中で生活できるように積極的に交流に取り組んでいる。地域資源を生かした外出の他、恒例化した「木綿葉の集い」、そうめん流しや介護犬の体験に小学生も招く等世代を超え交流している。また、散歩や清掃時の歓談や、地域行事に運営を手伝う等地域にも頼りになるホームが形成されている。立地的な制約に日常的な交流は困難ではあるが、地域の中での充実した生活を支援している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>他の施設ではあるが認知症啓発劇団「しゅんなめじょ」の活動に協力、参加出演しています。また、この発表についての広報活動も協力しています。認知症徘徊模擬訓練にも参加しています。運営推進会議などで相談されることもあり助言など適切に対応しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の報告、入退居・待機者情報、受診状況、困難事例の相談や事故・ヒヤリハット事例の報告、行事の調整など行い、様々なご意見やご質問に答えながらサービス向上に繋げています。その旨で家族会を通して報告もしています。	定例化した運営推進会議は、日常生活や行事、受診状況や事故・ヒヤリハット事例による意見交換が行われ、ケアサービスに反映させている。年度初回は親睦会を組み入れたり、年度末には全委員からの意見の収集の他、外部評価機関の選定を説明している。地域活動の衰退や地域福祉への限界に頑張る職員存在に感謝され、重度化への不安視する声(住み替え)にはグループホームとしての看取りケアを説明する等この会議を有効に活用している。家族会の中でこの会議に意義や機能・構成員を説明し、内容は自由に閲覧できる体制としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記の運営推進会議に参加していただいております。サービスの内容や困難事例の相談、事故発生後の再発防止に向けた取り組みなど行っています。関係書類は郵送せず直接あさぎり町役場へ提出するなど顔を合わせるようにしています。2月より介護相談員の受け入れも開始しています。	運営推進会議の中で、ホームの現状及び事故・ヒヤリハット等積極的に発信し、提出書類も行政に出向き、担当者に直接手渡して言葉を交わす等、何時でも協力が得られるよう努めている。町独自の補助事業や介護認定更新に日程調整等電話にて行政より情報を得、行政・高齢者福祉関係事業所との交流会、役場と地域包括主催の認知症声かけ模擬訓練に参画する等相互の協力関係が築かれている。今年度は入浴支援での相談や、事件報道を受け、さらに可視化したいとして介護相談員を採用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法律から禁止であると周知徹底をしています。帰宅願望が強い方など施錠や無理に止めたりしないように同行したり、どう支援すれば良いかカンファレンスや勉強会を行っています。	身体拘束の弊害、具体的な行為を全員が正しく認識しているが、今年度も研修により周知徹底している。入居者の中には常に帰り支度が済んだ方等帰宅願望が顕著な方もおられ、所在確認の徹底とともに、玄関先に鈴で対応する等拘束及び抑制の無いケアの実践に向けカンファレンスを繰り返している。帰宅希望に自宅に向いたり、買物等個別に関わり、研修の中で、言葉やベッド柵も話し合う等志向高く臨んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修会に参加したりその研修のフィードバックも取り入れ事業所内でも研修している。また物理的な虐待だけでなく、言葉掛けなどから虐待のケースにあたらないかなど定期会議でも取り上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はその旨の研修会などに参加しており、定期会議時などでフィードバックしている。事業所本体に権利擁護に関しての行政パンフレットなどを置いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書について契約者に見ていただき、読み上げを行っている。質問などはその時や、そのあとも随時受け付けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し意見交換の場としています。また、運営推進会議やJA熊本中央会による満足度調査アンケートの実施などからご意見、ご要望と多く拾えるように努めています。	入居者には日々の生活や運営推進会議参加時に意見や要望を収集している。家族には、各担当職員による毎月の手紙の中で、立ち寄りや気づき等も寄せてほしいと依頼し聞き取りしている。家族からの苦情はほとんどない状況にあり、電話での会話や声のトーンにより推察し、申し送りノートを活用し共有している。また、毎年JA熊本中央会による満足度調査により他部署のクレームも把握し、上層部からの注意喚起され、サービスに反映している。	家族会の中で、運営推進会議の説明や、職員体制及び受診状況、重度化対応等詳細な説明に、開かれたホームであることが表れている。参加家族が少ないのは残念であり、日程や開催時間等家族と調整いただき、参加者が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている定例会議へ施設長など幹部職員も参加していただき意見や提案事項を聞いてもらえるようにしている。また、年に一度、法人の部長による全スタッフ対象に個別でのヒヤリングの機会があります。	法人の課長や管理者とは気軽に話し合いができる信頼関係が築かれており、申し送りや昼食時間の利用、毎月の定例会議、転倒事故発生に再発防止に向けた緊急ミーティング等により意見や提案を検討する等全職員でサービス向上に取り組んでいる。また、全員が運営推進会議内容や、業務関係、ヒヤリハット等全ての事案を共有している。年1回の個別面談時にも意見等を収集している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意欲を高めることが出来るように労働条件の整備、改善に努めている。今年度は定められているストレスチェックを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期会議でケアについて学んだり、必要時には専門職員が集まりマニュアルの策定やその勉強会を行ったりしています。外部での勉強会へも積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会へ参加しています。(2か月に1回)また、この会主催の忘年会に参加など机上以外での交流も行っている。(管理者ばかりの参加にならぬようにも努めています)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年同様、入居時に本人の情報、家族や関係者からの聞き取りや本人との会話の中から要望や不安をくみ取り安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを持ち、本人の事ももちろん、家族様が困っていることや要望など伺っています。意見や相談があれば随時お聞きし信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られた方で、特別養護老人ホームかグループホームかで悩まれているご家族様があり助言させていただいたことがありました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出番をつくるように努めています。家事作業など出来る活動は積極的に参加していただき活躍できるようにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人にとって何が良い支援か家族に相談したり、病院受診付き添いをお願いしたり協力をお願いしています。担当スタッフから月に一度近況報告(画像入り)を送り、誕生会・家族会のお誘いも行い、施設生活によって家族と疎遠にならないようにも努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出や散歩、地域の人との交流、買い物、供養などの外出支援に努めている。面会もご自由に行ってもらい、「いつでもお越しください」と関係者には促しの声かけにも努めています。	ホームに訪問しやすい環境づくりに心がけ、地元の知人、友の訪問や、地域行事や観音様参りでは顔見知りの住民から接待を受けたり、散歩や買い物、法要への外出等個別に支援している。また、居室に仏壇、位牌を持ち込み、訪問される地域の方々もお参りしてくださる等入居しても大切にしてきたこれまでの関係が途切れないよう支援している。入居者を気にかけて車に乗り合わせて多くの老人会からの訪問を受ける方等このホームの特徴として挙げられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、認知症症状からくるトラブル回避や孤立を防ぐためにテーブルの位置を考慮したり、カウンターなどを利用している。レクや創作作業など合同で行う活動も取り入れています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年同様で退所後に様子を見に行くなど関係を断ち切らない様に努めているが、ケースによっては家族に相談のもとあえて距離をとったりと配慮した事もあった。もちろん、本人、家族から相談あれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族、担当していたCMなどから聞き取りを行っています。日々の生活の中(会話や行動)から把握するようにもしています。時間にルーズな方へ無理に施設時間に合わせるのではなく、こちら側から本人へ合わせるように努めています。	入居前の情報や、普段の話の中からそれとなく把握したこと、および家族からの新しい情報をノートに記載し、それぞれの思いや希望の把握に努めている。言葉での表現が困難な入居者には、生活リズムに合わせ、意思疎通困難な状況には、家族に相談し、声かけ方法を検討する等全職員が気負わず自然体で話を聞き、本人本位の生活に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昨年同様に情報提供書や本人、家族からの聞き取りを行っている。入居時に得た情報や後日面会などから新たに情報を得たときは連絡ノート(申し送り帳)を使用するなど全スタッフで共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に行っているカンファレンスや職員間の情報交換(連絡ノート)や介護記録などから全スタッフで把握出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	昨年同様に定例Meではカンファレンスの時間も設けており、日々の生活での特記事項や家族の面会時に入った情報などを介護日誌、連絡ノートなどに記録し検討・再検討している。また、その旨変更したプランあれば家族へ説明、同意を得ています。	プラン作成に自宅を訪問し情報を収集し、本人・家族の希望を踏まえた丁寧な介護計画が作成されている。毎月のケアカンファレンス、3カ月置きに担当職員の評価を基にケアマネジャーが再評価し、継続可否を見極めている。介護日誌にプランを付けることで、日々のケアへの反映と、プラン変更を活用している。健康な生活を送りたいとする思いに、体調管理に向けた環境を整備する等詳細で具体的なプランと、入退院時の見直し等現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録、Me、定例Me、運営推進会議など各記録はいつでも読めるようにしており情報を共有している。また、個別に担当職員別に経過、モニタリングし介護プランの見直し・評価に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所(JA関係施設も含め)の利用や交流、地域資源の活用など行っている。JAの行事(農業祭)などあれば入居者と参加したこともあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議はもちろん、地域資源の把握に努め地区の行事へ参加し交流出来る様に努めている。上記のようにJAイベントも参加、活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居以前からのかかりつけ医を支援している。家族様が遠方でかかりつけ医が遠い場合などは承諾を得て当事業所の協力医への主治医変更している。専門医へ紹介あった場合なども報告、確認をとっている。また受診時には家族付き添いもお願いしています。協力医へは診察以外でも特記(入院など)情報は伝えるようにしています。	これまでのかかりつけ医を継続し、家族にも受診の協力を依頼しているが、ホームが中心になっている現状である。主治医による専門医の紹介など、状況に応じ適切な医療支援に努めている。職員は朝のバイタルチェックや午後の検温により異常の早期発見に努める他、法人全体の看護師が集い、入居者の健康管理について話し合う機会を持ち職員に伝達されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人事業所全体で看護師Meが定期的に関催されており何かあれば提案、相談と行っている。緊急の特記時には別部署看護師でも随時支援を受けています。毎日、朝礼時に看護師も合わせての申し送りがあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のSWと情報交換できるように早めにアポイント入れる様に努めている。入院、退院時のカンファレンスには絶対参加(家族は仕事などで断られるケース多い)しています。行政やその医療機関の研修会などで顔を合わせる機会があります。このような時は出来るだけ多くのコミュニケーションをとれるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化された時の話し合いはしている。要介護が上がられ特養入居申請対象になられた時も同様。ほとんどの方が特養入居申請申し込みを希望されることが多い。しかし、家族会や運営推進会議からは終末期までと希望される意見はあり、定期Meはもちろん、管理者がその旨の研修に参加しフィードバックに努めています。しかし、まだ明文化までは至っていない。	入居時に重度化した場合の対応について家族の意向などを聞きとっている。介護度が3になった時点で、介護保険の利用範囲も広がることを伝えるなど、本人・家族の今後をサポートしている。職員より重度化への対応について意見が出ており、看取りに関する外部研修にも参加しているが、まだ、ホームでどこまで対応できるかなど詳細な決定には至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAEDの操作方法の訓練がありホールに備えている。急変時のマニュアルが見やすい所にある。また、転倒で頭部打撲のケースが発生した場合などには速やかにリスク会議の場を持ち、同応急対応すべきかなど新たなマニュアルの追加を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練・消火訓練と年に2回実施しています。地区の防災訓練は予定日に天候不良などがあり来年度に参加予定しています。木綿葉スタッフにこの地区の消防団分団長がいるので一層の協力体制はできています。緊急連絡網の整備もしています。	消防署立ち会いを含む年2回の火災避難・消火訓練、業者によるAED研修の実施や緊急連絡網の整備を行っている。自然災害について日常的な備蓄は行っていないが、この冬の寒波時は早出職員の泊まり込みや断水に供え、非常物品や水を確保している。また、断水時には清拭やドライシャワーでの対応や、行政のアドバイスにより別館施設での入浴を支援している。地区の消防団分団長を同法人職員が担い、延期された防災訓練にも参加を予定している。	災害備蓄については現在予報が出た場合準備している。今後は日常的に確保しておくことが必要と思われる。また、コンセントの埃など細かな安全点検に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に取り入れている。不適切な声掛けについては虐待にあたらぬかなど定例Meなどで話し合っている。また、その旨の研修会などに参加しています。	理念の中に尊厳のある生活を掲げ、支援の中で気になることがあればミーティングの中で取りあげている。呼称は本人の安心される呼び方や反応などを見て苗字や下の名にさん付けで対応しているが、家族へ状況報告などをする場合は、苗字で行っている。個人情報の使用については、家族の了承を得ており、職員の守秘義務についても指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昨年同様に着替え時はどうコーディネートされたいか伺っている。それ以外、全生活の中で会話の中などから本人の思いや希望をくみ取り、実現できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の業務は決まっているが、一人一人のペースを大事にし、ご利用者本人に合った支援に努めています。入浴予定日でも断られたら別日を提供するなど臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時はどうコーディネートされたいか伺っている。希望の化粧品などの買い物や美容室でのパーマへの外出・付き添い、送迎サービスの利用調整とも支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が一人ずつ付き会話を提供したり摂取状況を見守りしながら食事している。食材の下ごしらえやテーブル拭き、下膳、食器洗いなど各自の能力に応じた事を行っていただいています。	職員が1週間分の献立を作り調理しているが、外出や受診支援の状況では、業者による配食も活用している。嚥下に応じた食形態や主食も普通や軟らかめ、おにぎりなど個別で準備している。夏場のソーメン流し、地域の子どもたちと交流し、入居者の食への関わりとして、おはぎ作りや包丁でいちごのヘタ取り、お茶パックの袋詰めなどできる事のできる方と一緒に取り組んでいる。	エプロンの使用については、首に負担のない使用方法を検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の給食業者と手作りメニューを併用している。手作りメニューは献立内容を職員が栄養バランスを考えて作っている。食事摂取観察表などの活用。水分確保は各自水筒を持っていただき残量の観察をしている。料理の形態は各自に応じて作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後チェック表も活用し、一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。洗浄が不十分な場合は職員が手伝っている。義歯使用者へは毎晩市販の洗浄剤に浸けているが、義歯着用のまま就寝したい方などには合わせて対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昨年同様24時間管理の排泄チェック表を活用している。その方に合った(個別)時間帯でのトイレ誘導、パッド交換(パッドのサイズもそれぞれ違う)を実施している。トイレに座れる方なら安易なオムツ利用では無くトイレ使用をしていただくように努めています。	24時間チェック表でパターンを把握し、夜間のポータブルトイレ対応や、排泄用品交換も一人ひとりに応じた時間で行っている。また、尿とりシートも吸収量に応じたものを使用している。トイレは身体状況に応じ車椅子対応と普通トイレを使い分けており、尿意のある方への誘導やズボンの上げ下げの一部介助、皮膚が弱い方には夏場は布下着の使用など、個別対応が徹底している。折ったちり紙が置かれたトイレなどこれまでの習慣にも配慮した取り組みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医への相談はもちろん、乳製品を多く取り入れたり食物繊維を増やした献立をたてている。水分不足にならないようにも観察、促している。レクでの運動や起床後にコップ一杯の水を飲むなど自然排便を促す努力はしています。入居者個人ではヤクルト購入希望者あり販売員との調整もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性スタッフでの介助希望がある方への配慮をしている。入浴日については基本的には隔日だが本人の意向や病院予約、体調不良などで入れない時は翌日に入浴してもらうなど柔軟に対応しています。	入浴は同性介助への希望やバイタルチェックにより可否を見極め、週3回を基本に対応している。(水曜日はレクレーションやバスハイクを優先)職員が持ち寄った地ものの菖蒲やゆずを入れ季節を味わったり、朝風呂の希望や歌をうたいながら入られる方など、それぞれが入浴を楽しめるようにしている。また、介護度に応じ2名体制で安全に配慮することを申し合わせている。	浴室は清潔に管理されており、陽の入る窓棚の洗剤などは、別の場所で管理することで、より寛げる空間になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースに合わせている。夜間不眠傾向で翌朝の朝食時にも眠っている場合には無理に起こさず、食事提供時間を変更、工夫したりしている。空調や寝具調整、照明と安全面に配慮した居室配置などしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医はもちろん、処方箋は一つの薬局に決め薬剤師への相談もしやすく、処方薬表など連絡ノートや介護日誌にとじ込み、記録し全スタッフで管理、情報の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昨年同様、記録関係では出来なかったことや困ったことを記録する機会が多いが、喜ばれたことなども積極的に介護日誌、連絡ノートへの記録するように努めています。バスハイクなどの外出支援も気分転換のひとつにいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に買い物に出かけたり、近隣の散歩などや地域の催しなどにも出かけている。その他、業務に支障がない限りでの希望外出支援も行っています。帰宅願望が強い方など家族に確認をとっての一時帰宅の支援も行いました。	散歩や買い物など2～3名で出かける機会を持っており、業務日誌の中にも散歩外出として記録されている。また、近くの天神様への初詣や、彼岸では観音様まいりに出かけている。秋に行われた農活祭へ出かけた際の、好天に恵まれ頬被りして微笑む入居者の写真がホーム内やJAくまの冊子にも紹介されている。寒い時期も陽がさせば日光浴を兼ねて、近場の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	開所より本人の能力に応じて持っていており外出時に自分で好きな物を購入されている。また、移動パン屋さんなど来られた時など希望者は購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話、手紙と支援している。また、家族からかかってきた電話など事務室までお連れして会話していただく様にも努めています。幼馴染からのお手紙があり、その返事を書くのをお手伝いするケースがありました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物の作成、展示を行っている。また生花など利用者自ら活かしていただくこともあります。その他、職員が使いやすい様には無く、入居者様が使いやすい様に配慮しています。	職員は日々の掃除とともに、入居者が使いやすい環境の整備を心がけている。玄関をはじめホーム内には入居者と職員が一緒になって、花を生けたり制作物の掲示を行っている。リビングダイニングホールからは、竹林や樹木の開花など季節の移ろいを目の当たりにできる。また、ホールでは新聞や関心のある本(野菜の本など)を広げたり、ゲームを楽しむなど、一人の時間や入居者同士で和気あいあいと過ごせるように配慮している。	自然に恵まれた環境であり、今後も散歩中に摘んだ季節の草花を共用空間に取り入れていただきたい。外出も更に楽しみなものになると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席など配置に配慮している。カウンターやキッチン内も活用し安心出来る様な居場所づくりをしています。あえて他者との交流を好まれない方への配慮も工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物や寝具など自宅から持ち込みをしていただいたり、安心できるのであれば家族のご位牌なども持ち込んでいただいたりと居心地良く過ごしていただける様になっています。家族様がお泊りのスペースとしては提供しておりません。	居室入口のネームプレートには、こぶしやもくせい・つつじ等入居者にとって馴染みの樹木が描かれている。入居の際必要な品々について家族に説明を行っているが、状況によっては以前利用していたサービス事業所(訪問介護)の協力を得ながら居室環境を整えた例もある。寝具や小物、収納ケースなど持ち込みの種類や量は様々であり、ベッドも個々に応じベッドを配置している。お位牌には、面会の家族や知人によって供物が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場などがわかりやすいような掲示や、居室内での電灯のヒモの長さの工夫など安全面からも工夫しています。		